



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎
- 保健環境研究センター12月便り① New



（調査週）平成 24 年 第 4 8 週 1 1 月 2 6 日（月）～1 2 月 2 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	15.11	↑	↑↑	→～↑	→
2	RS ウイルス感染症	0.89	→～↑	→	→	↑↑
3	水痘	0.74	→	↑	→～↓	→～↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.63	→	→	↓	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.29	↑	→～↑	↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は367例で、前週報告の243例から急増。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③A群溶連菌咽頭炎、④RSウイルス感染症、⑤咽頭結膜熱＝突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（305例）は、急増。水痘の報告数（17例）は、増加。RSウイルス感染症の報告数（14例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（16例）は、ほぼ横ばい。咽頭結膜熱の報告数（3例）も、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（3例）も、ほぼ横ばい。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内より2例あった。郡山HC管内眼科定点から、急性出血性結膜炎と流行性角結膜炎の報告が、各々1例ずつあった。また、郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が2例報告された。（村井 記）

県北部外来状況 先週からノロウイルスと思われる感染性胃腸炎が急増している。症状は突然の嘔吐と腹痛で始まり、下痢は生じない例も多く、熱もほとんど出ない。嘔吐は大部分の例でほぼ1日間で軽快しており、例年に比べさらに軽症であるようだ。RSウイルス感染症はほとんど無くなり、水痘が増加の兆しがある。(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、261例から228例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、水痘、インフルエンザ、咽頭結膜熱・突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、185例と増加傾向であり、RSウイルス感染症は、12例と横ばいである。インフルエンザは、6例と今季初めての複数報告となった。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎2例の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からは、流行性角結膜炎2例の報告が、葛城保健所よりあった。(高木 記)

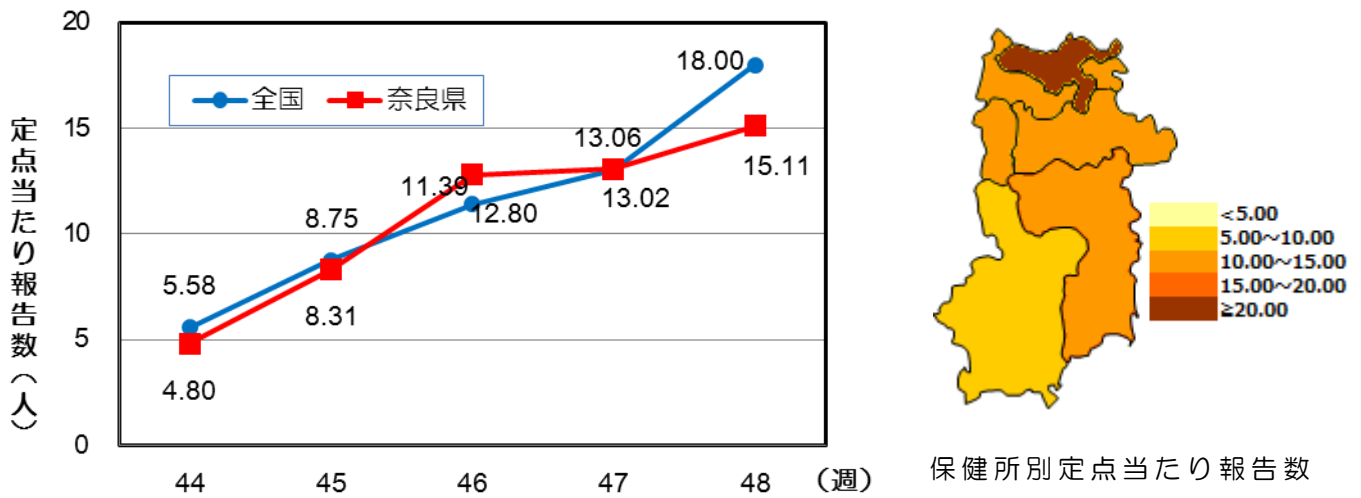
県中部外来状況 外来数はやや増加傾向。嘔吐を主とするノロ様の感染性腸炎が急増中。通常軽傷に経過するが、高熱例もある。頭痛を訴える例が多い印象。3歳未満の検査実施例では陽性を確認。ロタはない。RS気管支炎例が増加、乳児で検査陽性例が多く、経過は重い例では喘鳴強度、40度の高熱となる例もあった。3～4歳児にもRSらしい咳そう例がある。咽頭発赤、高熱例があるが、インフルエンザ様ではなく検査陽性例はまだない。他に水痘が少し。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第47週→第48週)は73例→53例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(63例→39例)、②RSウイルス感染症(1例→5例)、③A群溶連菌咽頭炎(0例→3例)、④咽頭結膜熱(0例→2例)、④水痘(4例→2例)、⑥インフルエンザ(0例→1例)、⑥突発性発疹(2例→1例)であった。(柳生 記)

県南部外来状況 ワクチン接種者を除けば外来数は特に増加していない。先の二週間で激増した感染性胃腸炎は減少気味となった。迅速陽性も含めて全てノロと思われた。第47週で水痘がやや多かった。手足口病も一例あった。RSウイルス感染症はなかった。インフルエンザもまだ認めていない。今週、一日置きに二峰性の発熱と二峰目に発疹を伴う幼児姉弟例があった。初発の姉は38℃台、顔面→大腿に粟粒大発疹、3日後発熱の弟は二峰目41.4℃あり、躯幹に同様の発疹が出現した。(山本 記)

《流行感染症情報：感染性胃腸炎》

第48週の奈良県全体における定点あたり報告数 15.11（報告数 529）と、前週より増加しました。全国値は 18.00 であり、奈良県より上回っています。



感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

【保健環境研究センター 12月だより①】

～海外で注意すべき感染症について～

年末・年始は海外へ渡航される方が多い時期です。健康で安全に海外へ旅行するために、注意すべき感染症について紹介いたします。



1. 生水・生肉・生野菜に注意！

渡航先で最も感染の可能性が高いのは、水や食べ物を介した消化器系の感染症です。発展途上国など公衆衛生の整備が不十分な地域では、水や食べ物から A 型肝炎、コレラなどに感染することがあります。生水・氷・サラダ・カットフルーツ・生の魚介類や生の部分が残る肉は避け、完全に火の通った食べ物を食べるよう心掛けてください。

2. 虫刺されに注意！

海外では日本で発生していないような、動物や蚊・ダニなどが媒介する病気が流行していることがあります。特に熱帯・亜熱帯地域ではマラリア、デング熱、チクングニヤ熱などに注意が必要となります。予防の基本は虫がいるところを避けること、そして虫除け対策を行うことです。できるだけ皮膚の露出の少ない長袖・長ズボンを着用し、虫除けスプレー等を使用することで蚊に刺されないよう注意しましょう。

3. 動物に注意！

野生動物は重篤な感染症の病原体を持っている可能性があります。特に狂犬病は発病するとほぼ 100% 死に至る危険な感染症であり、世界のほとんどの国で発生しています。鳥インフルエンザはもともと鳥の病気ですが、鳥との濃厚な接触により、人に感染することがあります。人に感染すると非常に症状が重くなります。海外では、野生動物とは十分に距離を取り、むやみに動物に触れることはやめましょう。

上記以外にも海外では思いもよらないことで、深刻な病気に感染することがあります。事前に渡航先の最新情報を確認しましょう。また、渡航前に医療機関や検疫所に相談し、予防接種で予防できる病気はワクチンを接種することをお勧めいたします。次号ではワクチンについて簡単に紹介いたします。

詳しくはこちらのホームページをご覧ください。

■ 渡航先の医療機関情報等 < 外務省ホームページ (世界の医療事情) >

<http://www.mofa.go.jp/mofai/toko/medi/index.html>

■ 予防接種に関する情報 < 厚生労働省検疫所ホームページ (海外渡航のためのワクチン) >

<http://www.forth.go.jp/useful/vaccination.html>

■ 感染症別の詳細情報 < 国立感染症研究所感染症情報センターホームページ (疾患別情報) >

<http://idsc.nih.go.jp/disease.html>

(ウイルスチーム 浦西 記)